

Book Review



世界基準の臨床歯内療法

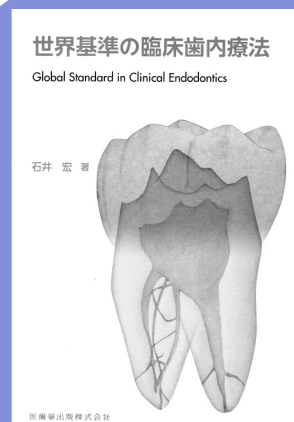
石井 宏 著



Reviewer

月星光博 Mitsuhiko Tsukiboshi
(愛知県・月星歯科クリニック)

A4 判, 308 頁
オールカラー
定価 (本体 20,000 円+税)
医歯薬出版刊



米国でエンド治療の専門教育を受け、日本でエンド治療の専門医として活躍している石井 宏氏が、やはり留学経験を持ったエンド専門医の仲間と書き下ろした本である。本書は題名の通り、エンド治療に関する世界基準の診断・治療法について書かれている。

多かれ少なかれ、エンド専門医はわが国の平均的なエンド治療の成功率に危惧の念をいっているのではないかと。根管治療の成功率を改善することは歯科そのものの信頼回復への近道であり、このことに大きく貢献するはずである。

本書は、「Chapter 1. 診査・診断と意思決定」、「Chapter 2. 非外科的歯内療法」、「Chapter 3. 外科的歯内療法」、「Chapter 4. 歯内療法の隣接領域」の4つの章から構成されており、わかりやすい。またそれぞれの章には、その項目に該当する重要な治療項

目が適切に細分類され、さらにEBMで(文献の裏打ちをもって)解説されている。「Key Literature」あるいは「Landmark Study」のコラムを要所に設けられ、重要論文について解説されていることも嬉しい。

こうした内容は、むしろ高いエンド治療の成功率を目指す歯科医師のために書かれたものであるが、GPで行うべきか専門医に紹介すべきかの難易度表がChapter 1に付されており、ここでは無理に治療をしておいて患者に迷惑をかけないための判断基準がわかりやすく解説されている。エンド治療は、各人がやる・やらないの基準を設けることも大切なのである。

エンド治療の成功のカギは、抜髄根管では感染をさせないこと、感染根管では感染を可及的に除去することである。非外科的歯内療法では、Initial Treatmentの項に多くのページを割か

れていて根管形成、洗浄、貼薬、充填について余すことなく解説されている。抜髄根管でも、感染根管でも、最初に根管にアクセスした歯科医師の責任は重い。したがって、Initial Treatmentの治療成績は、一般開業医がこの本に解説されている世界基準に準拠した術式を守ればかなり高くなるはずである。外科的歯内療法の項では、特に歯根端切除術について詳しく解説されていることも嬉しい。術中の患者のポジショニング、器具類、止血方法、逆根管充填法などについて知ることができる。歯内療法の隣接領域では、痛みのマネジメント、歯内・歯周病変、歯髄再生、歯牙破折、歯根吸収、穿孔などの対応についても考察されており、日常臨床で困ったときの一助になる。

世界基準の歯内療法に近づきたい先生にお勧めの一冊である。